

## あしかび 巻頭言

### 「あしかび」という足跡(あしあと)

校長 竹村 和之

日記など付けたことのない私が、毎日HR通信を発行するようになったきっかけは、その学校では、朝のSHRに「朝の読書」を実施しており、生徒にいろいろなお話をする時間が限られていたからだ。それまでの学校では、朝一番のこの時間に、その日のこと、昨日のこと、世の中で起こっていることなど、元気に一日をスタートできるようなことを話していた。他のクラスより長いSHRに生徒は辟易していたかもしれないが。

そもそも「想いは面と向かって伝える方がよく伝わる」という信念で、先輩教師のHR通信にさえ否定的であったのだが、実際にやってみると様々なことに気がついた。ネタ探しに生徒のことをよく見るようになる。思いを可視化(見える化)することで共有できる。「形に残す」ことの大切さを感じた。そんな経験から、今も、時に「Hands」なる校長通信を発行している。

スマホを使った画像、動画など、今では、形に残すためのツールは山ほどある。形に残して個人で楽しむというより、「インスタ映え」という言葉もあるように、今では、自己表現・自己PRのツールとして、共有し共感を得るために使っているほうが主流だろうか。

いずれにせよ、こうして残されたものの一つひとつは、その人が残した足跡とも言える。

私たちは、この一年この北高にどんな足跡を残しただろうか。

今、北高は大きな転換期にある。来年4月の下関北高等学校の開校だ。

地域との連携・協働という新高校のコンセプトを見据え、この1年、様々な新しい取組を生徒とともにやってきた。その詳細は、紙面の都合上、別のページにゆずるとして、これら一つひとつは、まだほっかほかの足跡だ。

「豊北～tie the emotion～」という本年度の文化祭のテーマに、生徒たちは、「豊北高校という校名での最後の文化祭。その意味を深く受け止め、豊北高校に誇りをもつ。文化祭に来られる人、関わるすべての人、先輩方など様々な人の「思い」を「結びたい」。これまでとこれからの豊北高校のつなぎ目を「結んでいきたい」という気持ちを込めた。

私たちも誰かが残した足跡の上を歩いている。

どうせ残る「足跡」なら、できれば、美しい足跡を残したいものだ。なぜなら、誰がその足跡を頼りに歩いてくるかわからないのだから……。もしかすると。君たちの子供かもしれない。その足跡、すなわち、自分が踏みしめた土の上から花の一輪でも芽をだしているとすれば、どんなに素敵だろうか。